

県外事務所通信～北海道事務所の巻～

今回は、札幌で見つけた「秋田」についてご紹介します。

秋田の美味しい味！

北海道の地元紙、北海道新聞のホームページのブログ欄に、先日、“秋田の美味しいお土産をいただきました”という記事が載りました。中身はというと、「比内鶏のくん製」と「いぶりがっこ」。札幌市在住の料理研究家・東海林明子さんは、この材料を使って「比内鶏くん製のピザ」と「いぶりがっこのカナッペ」

を創作したのです。ポイントは、ピザのソースにトマトではなくて蒲焼きのタレを使い、これにパプリカやモzzarellaチーズをトッピング。カナッペは、いぶりがっこにクリームチーズかカッテージチーズ、そしてトーストパンを組み合わせると最高の相性だとか。

ちょっとした工夫でこんな新しいレシピが生まれるのですから、秋田には美味しい味がもっと沢山埋もれているのではないのでしょうか。



秋田のイメージ?!

5月末、自転車で日本一周旅行をしている20歳の好青年と出会いました。4月下旬に東京を出発したこの青年＝清水君は、まずは北海道を目指して北上。5月中旬に秋田を通過しました。清水君曰く、札幌までの道中で一番印象に残っているのが秋田で出会った“おばちゃん”だとか。清水君が道を尋ねたところ、懇切丁寧に教えてくれたうえ、暫く車で伴走してくれたのだそうです。

また、自転車旅行では野宿することも少なくないものですが、清水君が時々利用するのが道の駅などの身障者用トイレ。秋田で“一泊”したトイレが大変きれいだったことも、秋田のイメージアップ?!に貢献したようです。ちなみに、景色などで良かったところは、と訪ねてみましたが、ひたすら海岸線(国道7号線)を走ったらしく、夕日以外はあまり印象に残っていないとのこと。それでも、清水君の心には“冬の荒れた灰色の”日本海ではなく、“夕日の沈むロマンチックな”海としてのイメージが強く残ったことでしょう。